

市場調査結果(中間報告)

	A 社	B 社	C 社	市民文化団体 D	市民文化団体 E
論点1 景観／ボリューム	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース1～2のようにアリーナ、大ホール、中ホール全ての機能の配置は難しい。運営が非常に困難である。 ・計画地には、大ホール、中ホール機能のみの配置が適切である。7千席のアリーナは、効果があるため別の場所で整備すべきである。5千席のアリーナではコンサート開催は難しい。 ・中央体育館の建替でアリーナを整備するなら考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース1～2は、アリーナとホールの同時使用時、終演後に滞留する人を捌くことができない。 ・ケース4のように、既存施設の改修または建替えが現実的である。アリーナを市内の別の場所に整備できると理想的である。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース1～2のようにアリーナ、大ホール、中ホール全ての機能の配置は難しい。運営が非常に困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース1～2のようにアリーナ、大ホール、中ホール全ての機能の配置は難しい。終演時の安全面に不安がある等、運営が非常に困難である。
論点2 交流人口増加／回遊性向上／まちなか活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナができれば、交流人口の増加は期待できるが、アリーナだけでは回遊性向上につなげることは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グッズ購入のため開演前の早い時間に会場に来る客も多い。開演までの時間を過ごす場所が北街道沿い等にあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街から、大ホールでの演劇公演時に客入りが増加するとの声を頂く。徒歩アクセスによる周辺への波及効果はある。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・回遊性向上は、アリーナだけでは難しいだろう。
論点3 稼げる施設／選ばれる施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース1～2のようにアリーナ、大ホール、中ホール全ての機能を配置すると使い勝手の悪化が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5,000 人規模のコンサートの場合、利益が少ない。7,000 席規模のアリーナであれば、選ばれる施設になるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナを兼用するケース 3 は、ライティングや音響演出、舞台のつくり込み、サイド席の売れ行き、仮設席のイスの仕様では長時間の公演に耐えられない等の理由から、演劇公演は難しい。 ・2 階席へのバリアフリー動線の確保や演者と客の動線整理が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナ機能を導入する場合、駐車場が十分に確保されなければ選ばれる施設とはならない。 ・バリアフリー動線を確保が必要である。 ・ホワイエの広さが充実すると運営しやすくなる。 ・将来的な興行内容を見据えた新たな舞台機構等の導入必要性は、現段階では感じていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・800席の中ホールは利用しやすい規模である。
論点4 交通アクセス／駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡では自動車メインの交通手段となる。計画地でアリーナを設置すると、自動車を受け入れることができず、終了時の渋滞は大きな問題になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の運営においても交通渋滞や駐車場不足は大きな課題であり、アリーナ機能の導入は、計画地の条件からは成立しないと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、関係者用、利用者用駐車場が不足しており、クレームが発生している。周辺の交通渋滞による、公演への到着遅れも発生している。 ・現在でも交通面では非常に厳しい状況であり、アリーナ機能が導入された場合、事故等の発生が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の運営においても交通渋滞や駐車場不足は大きな課題であり、アリーナ機能の導入は、計画地の条件からは成立しないと感じる。 ・現在、利用者用駐車場、関係者用駐車場ともに台数が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナ機能を導入する場合、駐車場不足・交通渋滞から公演や授賞式への到着遅れの発生が懸念される。
論点5 事業費／民間事業者の参画	<ul style="list-style-type: none"> ・予算は限られているため、膨大な経費をかけずに建替えを目指せばよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再整備、運営管理、企画に共同事業体として参画の可能性は十分ある。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・再整備の場合は管理運営に参画したい。 ・PFI による整備の場合には、共同事業体としての参画も考えられる。 	—
論点6 休館期間	<ul style="list-style-type: none"> ・休館期間が長くなると周辺施設への影響が大きい。周辺施設の稼働率も約8割であるため、公演が実施できなくなる団体も発生する。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・休館期間が短い改修での再整備が最も望ましい。 ・休館期間中の大ホールの代替施設としてはマリナートが有力だが、清水エリアはマーケットが不明である。全ての公演の受け皿にはならず、公演継続を断念する団体もあるだろう。 ・4 年半の休館期間中に、マーケットの縮小、文化の流出・衰退が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4 年半という休館期間では、文化の衰退や消滅が懸念される。流出し、戻らない文化活動も多いだろう。 ・休館期間を最小限に留めるための段階整備は、運営リスクが高い。大ホールの方が、休館期間短縮の優先度は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年半の休館は、文化活動の縮小を招く。取り戻せない状態になりかねない。
論点7 既存施設の機能維持	<ul style="list-style-type: none"> ・休館期間の課題はあるものの、現在の劇場のスペックや耐用年数を考えると大規模改修ではなく、建替えがよいと思われる。 ・ケース3は、現在の大ホール利用者には使いづらい。 ・仮に現在の利用者が全員利用する場合、既に稼働率は8割であり、5千席・7千席の施設を整備する意味がないため、ケース3は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現施設は、客席から舞台も見やすく、楽屋の数、ロビーやバックヤードの配置や広さなど、興行上の大きな問題はなく、静岡市内でも一番使い勝手が良い施設である。 ・大ホールと中ホールの規模が現在よりも縮小するのは、市民にとってもイベント運営会社にとっても大きな損失である。 ・ケース3は、既存の大ホール利用率が8割を超えており、アリーナでの興行との共存は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存大ホールのステージは奥行きや袖の広さが十分に確保されており、非常に使いやすい。ステージ規模を縮小すると、演目の内容が制限され、ツアー公演が難しくなる。 ・ホワイエ規模が縮小されると、緊急時の避難誘導が難しくなる。売店や子供用シート貸出ブースの設置等の運営条件としても厳しい。 ・花道に照明やスピーカーを仕込むため、客席が狭くなると演出が制限される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージやバックステージは他施設と比較しても十分な広さが確保されている。 ・改修による利便性の向上が最も望まれる再整備のあり方である。 ・ケース 1～2 はホワイエ面積が不足する。雨天時等も考慮し、公演前後の滞留空間の確保は重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイエは現施設の大きさがほしい。 ・ケース3は、音響面や客席数の多さ等から、現在の大ホール利用者には使われない。
論点8 日常的な利用	<ul style="list-style-type: none"> ・創造活動の場として日常的に利用されるためには、文化プログラムなどのソフト事業も必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広場が、みんながくつろぎたくなるような場所になると良い。 ・計画地は目的がないと訪れない場所である。開演前の待ち時間を過ごせるカフェのような場所があれば便利である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル室は大ホール用・中ホール用それぞれ確保されていると利便性が高く、市民の高い貸室需要にも対応しやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常利用を促進するためには、サークル活動の支援・育成等のソフト面の取組みが重要である。アイセル 21 等の生涯学習センターは日常的に利用されている。 ・日常利用を促進するために、電源の設置や wifi の導入が有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習する場がないため、練習室があれば利用する方は多いと考えられる。